し事を祭司の長等に告しかば十二彼等と長老あつまりて共に議おほくの銀
十三 子を兵卒に給て曰けるい十三爾曹いへ我儕が寢たる時りの弟子夜きたりて
十四 彼を竊りと十四此事もし方伯に聞るとも我儕かれに勸て爾曹に憂慮なから
十五 ゑめん十五かれら銀子を取て囑められたる如したりし是に於て此の如き話
十六 今日に至るまでユダヤ人の中に傳播られたり○十六十一の弟子ガリラヤに
十七 往てイエスの彼等に命じ給ふ所の山に至り十七イエスを見て拜せり然ど疑
十八 へる者もありき十八イエス進て彼等に語いひけるい天のうち地の上の凡の
十九 權を我に賜れり十九是故に爾曹ゆきて萬國の民にバプテスマを施し之を父
二十 と子と聖靈の名に入て弟子とし二十且わが凡て爾曹に命せし言を守れと彼
等に教よ夫われい世の末まで常に爾曹と偕に在ありアメン

新約全書馬太傳福音書　終

ウ 徒十二〇十九、
非 太廿七〇八、
ノ 太廿六〇卅二、
オ 但七〇十四、來二〇八、後前三〇廿二、
ク 可十六〇十五、徒二〇廿八、羅四十一、八〇十二、十六、
ヤ
マ 約十四〇十八、羅廿三、

新約全書馬可傳福音書

二 これ神の子イエスキリストの福音の始あり二預言者の錄して視よ
三 我あんぢの面前に我使を遣さん彼あんぢの前に其道を設くべし三野に呼
四 る人の聲あり云く主の道を備へ其徑すぢを直せよと有が如く四ヨハ子野
五 に於てバプテスマを施し罪の赦を得させんゞ爲に悔改のバプテスマを宣
六 傳たり五ユダヤの全國およびエルサレムの人々かれに來りて各々りの罪
七 を認いしヨルダンといふ河にてバプテスマを受六ヨハ子い駱駝の毛衣を
八 着腰に皮帶をつかね蝗蟲と野蜜を食へり七かれ宣傳けるい我より勝れる
九 者わが後に來らん我い屈て其履の紐を解にも足ず八我い水をもて爾曹に
バプテスマを施しゝが彼い聖靈をもて爾曹にバプテスマを施すべし九當
時イエスガリラヤのナザレより來りヨルダンにてヨハ子よりバプテスマ
十一 を受十頓て水より上れるとき天開れ靈鴿の如く其上に降るを見たり十一又
十二 天より聲ありて云なんぢい我が愛子わが悅ぶ所の者なりと○十二斯て靈た

イ 太三〇十七、路二〇卅五、約一〇卅四、馬三〇一、
ロ
ハ 賽四〇三、
ニ 太三〇一至十二、路三〇三至十八、
ホ 徒廿二〇十六、
ヘ 約一〇廿五至廿八、三〇廿三、
ト 王下一〇八、至十三〇四、
チ 利十一〇廿二、
リ 得前十四〇廿五至廿七、
ヌ 徒二〇四、十〇四十五、哥前十二〇十三、
ル 太三〇十三至十七、路三〇廿一廿二、
ヲ 約一〇廿二、
ワ 太十七〇五、彼後一〇十七、
カ 太四〇一至十一、路四〇一至十三、

ヨ 太四〇十二、廿三、
タ 但九〇廿五、加四〇四、卅一〇十、太四〇十七、
レ 太四〇十八至廿二、路五〇一至十一、
ソ 約一〇四十至四十二、

十三 だちにイエスを野に往しむ十三かれ四十日野に在てサタンに試られ獣と共
十四 にをれり天の使等これに事ぬ〇十四ヨハネの囚れし後イエスガリラヤに至
十五 り神の國の福音を傳いひけるゝ十五期ゝ滿り神の國ゝ近けり爾曹悔改めて
十六 福音を信せよ〇十六イエスガリラヤの湖の邊を歩る時シモンと其兄弟アン
十七 デレの湖に網うてるを見る彼等ゝ漁者なり十七イエス彼等に曰けるゝ我に
十八 十九 從へ我爾曹を人を漁る者とせん十八彼等たゞちに其網を棄て之に從へり十九
此より少し進行ぜべダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネの舟に在て網つく
二十 ろふを見て二十直に彼等を召給ひしかゞ其父ゼベダイを傭人と共に舟に遺
て彼に從へり〇二一彼等カペナウムに至るイエス即ち安息日に會堂に入て
二二 教を爲しに二二人々ろの教を駭き合り蓋學者の如あらず權威を有る者と如
二三 二四 く教たまへゞ也二三其會堂に汚たる鬼に憑たる人ありて二四喊叫いひけるゝ
嗟ナザレのイエスよ我儕ゝ爾と何の與り有んや爾きたりて我儕を滅すか
我あんぢゝ誰ある乎を知即ゝち神の聖ある者あり二五イエス之を責て曰け

子 路四〇廿一至廿七、
ナ 但六〇二、太七〇廿八、約七〇十五、四十六、
ラ 路四〇廿三、
ム 太八〇廿九、
ウ 但九〇廿四、路一〇廿五、使三〇十四、

ヰ 可九〇廿、
ノ 太八〇十四至十七、路四〇廿八至四十一、
オ 可三〇十二、
ク 路四〇四十二至四十四、
ヤ 可六〇四十六、路六〇十二、
マ 羣六十一〇二、

二六 るゝ聲を發すこと勿れ其處を出よ二六汚たる鬼ろの人を拘攣させ大聲に叫
二七 びて彼を出たり二七衆人みあ驚き相問て曰けるゝ是何事ぞや是いかある新
二八 しき教ぞや汚たる鬼さへ權威をもて命じけれゞ從へり二八是に於てイエス
二九 の聲名徧くガリラヤの四方に播りぬ〇二九彼等やがて會堂を出ヤコブ及
三十 ヨハネと共あシモンアンデレの家あ至しあ三十シモンの岳母熱を病て臥ね
三一 けれゞ或人たゞちあ之をイエスに告三一イエス往て其手をとり彼を起しけ
三二 れば熱たちまち去ぬ斯て其婦彼等に供事たり三二夕かた日の落とき人々す
三三 べての病を患へるもの鬼あ憑たる者をイエスあ携へ來る三三ろの邑こぞり
三四 て門に集れり三四イエス各樣の病を患へる多の人々を醫し又多の鬼を逐出
三五 し鬼の言ふ事を許さゞりき蓋鬼かれを識たるに因てあり〇三五昧爽にイエ
三六 ス早く起人あき所あゆき其處あて祈禱せり三六シモンおよび彼と共あ在し
三七 三八 者等ろの跡を慕ゆき三七彼に遇て曰けるゝ衆人みあ爾を尋ぬ三八イエス彼等
に曰けるゝ我ゝ教を宣傳る爲に爾曹と偕に附近の鄕村へ往ん我これが爲

ケ 太四〇廿三、
フ 太八〇二至四、路五〇十二至十五、
コ 利十三〇四十四至四十六、
エ 可五〇四十三、太九〇廿、
テ 利十四〇十至廿一、
ア 路五〇十五、
サ 太九〇一至八、路五〇十八至廿六、
キ 徒十三〇廿八廿九、

三九 に來れば也三九イエス遍くガリラヤの國を經めぐり其會堂にて教を宣且鬼
四〇 を逐出せり○四〇癲病のもの一人かれに來りて跪き求ひ曰けるゝ爾もし聖
四一 意に適ときゝ我を潔く爲得べし四一イエス憫みて手をのべ彼に接て我意に
四二 適へり潔なれと四三言やいな直に癲病はなれ其人きよまれり四三四四イエス嚴く
四三 之を戒め愼みて何をも人に告る勿れ但ゆきて己が身を祭司に見せ其潔ら
四四 れし爲にモーセが命せし所の物を獻て彼等に證據をなせと言て去しめた
四五 り四五然ども彼いでゝ先この事を大に言つたへ語り廣めければイエス此後
あらはに城に入がたく獨人なき所に居給ひしが人々四方より彼に來れり

二 數日の後イエス復カペナウムに來しに二彼の室に居ると聞えけれ
ば直に多の人々集きたり門に立べき塲處さへもなき程なりきイエス彼等
三 に教を宣三此に癱瘋を病たる者を四人に舁せイエスに來れる者ありしが
四 群集によりて近づき難かりければ彼の居ところの屋蓋を取除き癱瘋の
人を床のまゝ縋下せり五イエス其信仰を見て癱瘋の人に曰けるゝ子よ爾

ユ 約十〇廿三至廿六、
メ 羅四十三〇廿五、伯九〇九、
ミ 可十二〇十五、路六〇八、約二〇廿五、
シ 路七〇四十七至四十九、徒五〇廿一、四三〇十三、
エ 太九〇九至十三、路五〇廿七至廿二、

六 の罪赦されたり六數人の學者こゝに坐し居しが心中に謂けるゝ七斯人ゝ
七 何故かく惡口を言か神にあらずして誰か罪を赦すことを得んハイエス直
八 に彼等が心中に斯の如き事を論ずるを自ら其心に知て彼等に曰けるゝ爾
九 曹かんぞ心中に斯る事を論ずる乎九癱瘋の人に爾の罪ゝ赦されたりと言
十 と起て爾の床を取て行と言と孰れ易やヽうれ人の子地にて罪を赦すの權
十一 威あることを爾曹に知せんとて遂に癱瘋の人に十一我かんぢに告おきて床
十二 を取かんぢの家に歸れと曰ければ十二ろの人たゞちに起て床をとり衆人の
前にいづ衆人みな駭き神を崇めて曰けるゝ我儕いまだ斯の如ことを見し
十三 ことなし○十三イエスまた海邊に往しに人々みな彼に來ければ是等を教ふ
十四 十四此より進てアルパヨの子レビといふ者の稅吏の役所に坐し居けるを見
十五 て我に從へと曰ければ彼たちて從へり○十五斯てイエスろの家にて食する
時おほくの稅吏罪ある人々イエス及び弟子と共に坐せり是等の者許多あ
十六 りてイエスに從ひぬ十六學者とパリサイの人かれが稅吏および罪ある人と

ヒ 太十一〇十九、

モ 太九〇十四至十七、路五〇廿三至廿八、

セ 徒十三〇三、十四〇廿三、

ス 太十二〇一至八、路六〇一至五、

イ 申廿三〇廿五、

共に食するを見て其弟子に曰けるゝ何ゆゑ税吏罪ある人と共に食飲する
十七 平イエス聞て彼等に曰けるゝ康强ある者ゝ醫者の助を需ず唯病ある者
これを需わが來しゝ義人を召ためにあらず罪ある人を召て悔改させんが爲
十八 あり〇十八ヨハネの弟子及びパリサイの人つねに斷食する事ありけれど彼
等イエスに來いひけるゝヨハネの弟子とパリサイの弟子ゝ斷食するに爾
十九 の弟子ゝ何ゆゑ斷食せざる平十九イエス彼等に曰けるゝ新郎の朋友らの新
郎と共にをる間に斷食することを得べき乎かれら新郎と共にをる間ゝ斷
二十 食することを得じ二十將來かれら新郎をとらるゝ日きたらん其日にゝ斷食
二一 すべき也二一新しき布を舊衣に縫つくる者あらじ若し然せば其新に補へ
二二 るもの舊を綻ばして其破かへつて悪あるべし二二亦あたらしき酒を舊き革
嚢にいるゝ者あらじ若し然せば新酒ゝ其嚢を破裂て酒もれいで革嚢も
二三 亦壞るべし新酒ゝ新しき革嚢に盛べきもの也〇二三偖イエス安息日に麥
二四 の畠を過りしに其弟子あゆみつゝ麥の穗を摘はじめければ二四パリサイの

ロ 申前廿一〇六、

ハ 出廿九〇廿二廿三、利廿四〇九、

ニ 出廿三〇十二、

ホ 太十二〇九、路六〇六至十一、

ヘ 路十四〇一、

ト 太廿二〇十六、

人彼に曰けるゝ彼等安息日に爲まじき事をするゝ何故ぞ二五イエス答ける
二六 ゝダビデ及び從に在し者の乏くして飢しとき行たる事を未だ讀ざる乎二六
即ち祭司の長アビアタルのとき神殿に入て唯祭司の外ゝ食まじき供物の
二七 パンを食かつ從に在し者にも與たり二七また彼等に曰けるゝ安息日ゝ人の
二八 爲に設られたる者にして人ゝ安息日の爲に設られたる者に非ず二八然べ人
の子ゝ安息日にも主たる也

二 ホ イエスまた會堂に入しに一手枯たる人ありけるが二衆人イエスを
三 訟んとして彼ゝ此人を安息日わ醫すや否と窺へり三イエス手枯たる人に
四 曰けるゝ中わ立よ四また衆人に曰けるは安息日わゝ善を行と悪を行と生
五 るを救ると殺すと孰をか爲べき彼等默然たり五イエス怒を含て環視し彼
等が心の頑硬あるを憂へ手枯たる人に爾の手を伸よと曰ければ彼ゝの手
六 を伸しゝに即ち他の手のごとく愈たり六パリサイの人いでゝ如何してか
七 イエスを殺さんと直わへロデの黨に相謀りぬ〇七イエスゝの弟子と共に

チ 路六〇十七、
リ 路四〇曰十一、
ヌ 太十二〇十六、太十〇一至四、路六〇十二至十六、
ル 路九〇一二、
ヲ 太四〇十八、
ワ 太四〇世一、徒十二〇二、
カ 路六〇十六、猶一、徒一〇十三、
ヨ 路六〇十七、
タ

八 海邊に退しに多の人々ガリラヤより彼に從へり又ユダヤ八エルサレムイ
ドマヤヨルダンの外またツロとシドンの邊より多の人々イエスの行し事
九 を聞て彼に群り來る九イエス人々の群集に因て擁あやまさるゝ事あから
十 ん爲に小舟を我に備おけと其弟子に曰り十是イエス數多の人々を愈しゝ
十一 に因て凡て病ある人々手ゐて彼に捫んとて擁逼しが故あり十一また汚たる
十二 鬼かれを見て其前に俯伏さけびて爾い神の子ありと曰しを十二イエス彼等
十三 に我を揚すこと勿れと嚴く戒めたり○十三イエス山に登て其意ゐ適ふ所の
十四 者を召しかゞ來りて彼ゐ就り十四是に於て十二人を立て己と偕に置また敎へ
十五 を宣傳る爲に遣し十五かつ病を醫し鬼を逐出すの權威を授く十六乃ちシモン
十六 をペテロと名け十七ゼベダイの子ヤコブと其兄弟ヨハネこの二人をボアネ
十七 ルゲと名く之を譯ゞ雷の子あり十八又アンデレピリポバルトロマイマタ
十八 イトマスアルパヨの子ヤコブタッダイカナンのシモン十九又イスカリオ
十九 テのユダ此いイエスを賣しゝ者なり二十此等の者家に入しに多の人々又來
二十

レ 可六〇卅一、
ソ 路七〇三、五、
ツ 太十二〇廿四、卅一、路十一〇十五、廿三、太十〇廿五、
ネ 提前一〇十三、廿五十五、路一〇九、
ナ 路十二〇十、路一〇五〇十六、
ラ 太十二〇四十六、五十、路八〇十九、廿一、

二一 り集りけれゞ食する暇もなかりき二一其親屬きゝて彼い狂氣せりと言て之
二二 を拏んとて來る二二又エルサレムより下れる學者等も彼はベルゼブルゐ憑
二三 れたり且鬼の王ゐ藉て鬼を逐出すなりと曰り二三イエス彼等を召び譬を以
二四 て曰けるはサタンは何でサタンを逐出し得んや二四もし國おのれに悖て分
二五 爭はゞ其國立べからず二五また家おのれに悖て分爭はゞ其家立べからず二六
二六 若サタン己ゐ悖り起て分爭いゞ彼たつ可からず反て終るなるべし二七誰に
二七 ても勇士の家に入て其家具を奪んとせゞ先勇士を縛らざれゞ奪ふこと能
二八 いと縛て後その家を奪ふべし二八われ誠に爾曹に告ん人の凡の罪と瀆す所
二九 の褻瀆は赦るべけれど二九聖靈を瀆す者は限なく赦さる可からず限なき刑
三〇 罰に干らん三〇斯いへるい人々イエスを惡鬼に憑たりと言しが故なり○三一
三一 ろの兄弟と母と來りて戸外にたち人を遣してイエスを呼しむ三二多の人々
三二 イエスを環て坐したりしが彼に曰けるは視よ爾の母と兄弟戸外ゐ在て爾
三三 を尋ぬ三三イエス答て曰けるい我母わが兄弟い誰ぞや三四斯て側ゐ坐する人
三四

ム 太十三〇一、路廿三、路八〇四、路十五、

ウ 那一〇九、哥前五〇十二、提前三〇七、非

ノ 羅六〇九、十、徒十八〇廿六、羅十一〇八、

三五 人を環視して曰けるは我母わが兄弟を見よ三五うれ神の旨に從ふ者は是わ
が兄弟わが姉妹わが母なり

二 第四章 イエスまた海濱にて教訓を始しゐ多の人々かれゐ集りければ彼舟
に乘て坐し凡の人々は海ゐ沿て岸ゐ立り二かれ譬をもて多の事を彼等に
三 教ふ教て曰けるは三聽よ種播もの播んとて出四播るとき或種ゐ路の傍ゐ
四 遺しが空の鳥きたりて之を食へり五或種ゐ土うすき磽地に遺しが土深か
五 らねば直に萌出たれど六日出しかば曝れ根なきが故に枯たり七或種ゐ棘
六 の中に遺しが棘うだちて之を蔽ければ實を結ばざりき八また或種ゐ沃壤
七 に遺しが其苗はえいで〻蕃り實を結ること或は三十倍或ゐ六十倍或ゐ
八 百倍せり九また彼等に曰けるは耳ありて聽ゆる者ゐ聽べし○十衆人の居
九 ざりし時イエスの側に在し者と十二弟子と此譬を問しかば十一イエス彼等
十 に曰けるは神の國の奧義を爾曹には知ることを賜へど他の者には凡て譬を
十一 以てす十二是かれら視ども視ても見ず聽ども聽ても聽らず心を改めて其罪

オ 提前六〇九、十七、

ク 太五〇十五、路八〇十六、十八、

ヤ 太十〇廿六、マ 太十一〇十五、

ケ 太七〇二、路六〇前八、

コ 太廿五〇廿九、路十九〇廿六、

十三 の赦を得ざらん爲なり十三また彼等に曰けるは爾曹この譬を知ざるか然ば
十四 如何して凡の譬を識ることを得んや十四うれ播者は教を播なり十五道の播れて
十五 路の傍に遺しものゐ人道を聽しとき直にサタン來て其心に播れたる道を
十六 奪取なり十六また磽地に播れたるものゐ人道を聽とき直に喜びて之を受十七
十七 然ども己に根なきが故たゞ暫時のみ後道の爲に患難あるひゐ迫害に遇と
十八 きゐ忽ち凝く者なり十八又棘の中に播れたるものゐ人ことばを聽ども十九此
十九 世の思慮と貨財の惑また各樣の情欲いり來りて道を蔽により終ゐ實を結
二十 ざる者なり二十沃壤に播れたるものゐ人道を聽て之をうけ或ゐ三十倍ある
二一 ひゐ六十倍あるひゐ百倍の實を結ぶ者なり○二一また彼等に曰けるゐ燈を
二二 持來りて斗の下あるひゐ牀の下に置もの有んや之を燭臺の上ゐ置ならず
二三 平二三隱て明瞭にならざるはなく藏て露れざる者はなし二三耳ありて聽ゆる
二四 者は聽べし二四また彼等に曰けるは聽ところを愼めよ爾曹が度る所の量を
二五 もて爾曹も度らるべし聽たる爾曹ゐはなほ加られん二五うれ有る者はなほ

コ 太十三〇廿四、

エ 路十四〇十五、

テ 太十三〇卅一、卅二、路十三〇十八、十九、

ア 太十三〇卅四、約十六〇十二、哥前三〇二、

サ 太八〇十八、廿三、路廿七、路八〇廿二、廿五、

二六 與られ無有者は有る者をも取るゝ也〇二六また曰けるは神の國ハ人種を地
二七 に播が如し二七日夜起臥する間ゐ種はえいでゝ成長ぜども其然る故を知ず二八
二八 うれ地ハ自から實を結ぶものにして初にハ苗つぎゐ穂いで穂の中に熟し
二九 たる穀を結ぶ二九既ゐ熟ゞ穫時いたるゐ因て直ゐ鎌を入さする也〇三十また
三十 曰けるは神の國ハ何に比へ何の譬を以て之を喩ん三一一粒の芥種のごとし
三一 之を地に播ときハ百樣の種より微けれど三二既に播て萌出れゞ百樣の野菜
三二 よりハ大くかつ巨なる枝を出して空の鳥ろの蔭に棲はぜに及なり〇三三イ
三三 エス彼等の聽得ところに循ひ多かゝる譬をもて教を彼等に語れり三四譬に
三四 非ざれゞ彼等に語らずイエスろの弟子と共に居るとき彼等に悉く之を解
三五 聽せり〇三五偖ろの日の夕暮イエス彼等に向の岸に濟れと曰けれゞ三六弟子
三六 たち衆人を歸らせイエスの舟に在しを其まゝ之と偕に濟れり又他の小舟
三七 もともに往り三七時に颶風おこり浪うちこみて殆ど舟に滿三八イエス艄のか
三八 たに枕して寢たりしが弟子かれの目を醒して曰けるは師よ我儕が溺るゝ

キ 伯廿八〇十一、

ユ 太八〇廿八、廿四、九〇一、路八〇廿六、廿七、

三九 をも顧み給はざる乎三九イエス起て風を戒め且海に靜りて穩かに爲と曰け
四十 れゞ風やみて大に和たり四十斯て彼等に曰けるハ何故かく懼るや爾曹何ぞ
四一 信なき乎四一彼等甚しく懼れ互に曰けるハ風と海さへも順ふ是誰なるぞ耶
二 [illegible]かれら海を濟てガダラ人の地ゐ着ニ舟よりイエスの上れるとき惡
三 鬼ゐ憑れたる人たゞちに墓間より出て彼ゐ遇三この人ハ墓間を居處とせ
四 り屢次桎梏と鏈をもて繫ぐも鏈をうちきり桎梏を打碎により之を繫うる
五 者なく亦誰も之を制し得もの無りき五夜も晝も恆に山と墓間に於て喊叫
六 また石をもて己が身に傷つけぬ六彼はるかにイエスを見て趨より之を拜
七 し七大聲に呼りけるハ至上神の子イエスよ我なんぢと何の與り有んや我
八 神に託て求ふ我を苦むること勿れ八是イエス惡鬼ゐ人より出よと曰しに
九 因てなり九イエス彼に爾の名ハ何と問しゐ答けるハ我儕おほきが故に我
十 名をレギョンと云十切に此土地より我儕を逐出す勿れとイエスに求たり
十一十二 茲に多の豕の群山に草を食ゐたりしが十二凡の惡鬼かれに求て我儕を遣

メ 徒十六〇卅九、
ミ 路八〇卅八、
シ 太九〇一、
ヱ 太九〇十八至廿六、路八〇四十一至五十六、徒十三〇十五、
ヒ

十三 て家に入せよと曰ければ十三イエス直に彼等に許せり汚たる鬼ろの人より
十四 出て家に入しかば約ろ二千匹ほどの群はげしく馳くだり山坡より海に落
十五 て海に溺ぬ十四牧者ども逃ゆきて此事を邑また鄉村に告ければ衆人其あり
十六 し事を視んとて出十五イエスに來りて惡鬼に憑れたる者すなはちレギヨン
十七 を持たりし人の衣服をつけ慥なる心にて坐し居けるを見て懼あへり十六此
十八 事を見し者ども惡鬼に憑れたりし者の事と家の事を彼等に告ければ十七頓
十九 てイエスに其境を出んことを求ぬ十八イエス舟に登んとせしとき惡鬼に憑
二十 たりし者ともに居んことを求けれども十九イエス許ずして彼に曰けるゝ爾
二一 の家に歸り親屬に往て主の爾に行し大なる事と爾を恤みし事を告よ二十彼
二二 ゆきてイエスの己に行たまへる大なる事をデカポリスゐ言揚しければ衆
二三 人みな駭きあへり○二一イエス舟に乘て復海の彼岸に濟しに大勢の人々彼
に集るイエスは海に近をれり二二會堂の宰ヤイロといふ人きたりイエスを
見て其足下に伏二三切々に求いひけるゝ我いとけなき女死る瀕になりぬ之

ス 可十〇五十二、徒十四〇九、十、
イ 路八〇四十九、
モ 太九〇廿、
セ 路六〇十九、

二四 を救ん爲ゐ來りて手を彼に接たまへ然れば女ゝ生べし二四イエス彼と共に往
二五 ときに衆多の人々彼ゐ從ひて擁あへり二五爰ゐ十二年血漏を患たる婦あり二六
二六 此婦おほくの醫者の爲ゐ甚だ苦められ其所有をも盡く費しけれども何の
二七 益もなく轉て惡かりしが二七イエスの事を聞て群集の中より彼の後に來ろ
二八 の衣に捫れり二八是ろの衣にだに捫らば愈るべしと曰べなり二九斯て血の漏
二九 ること直ゐとまり既ゐ疾いえしと其身に覺たり三十イエス自ら能力の己よ
三十 り出たるを知おほせいの人々を顧みて曰けるは我衣に捫りし者ゝ誰なる
三一 乎三一弟子かれに曰けるゝ群集の人々の爾に擁あふを見て我に捫りし者ゝ
三二 誰ぞと曰たまふ乎三二イエスこの事を行る婦を見んと環視しければ三三婦お
三三 ろれ戰慄おのが身にせられし事をしり來て彼の前に俯伏こと〴〵く實情
三四 を告三四イエス彼に曰けるゝ女よ爾の信なんぢを救り安然にして往なんぢ
三五 の疾いゆべし○三五イエスこの事を言をるうちに會堂の宰の家より人々來
三六 りて曰けるゝ爾の女すでに死たり何ぞ師を煩ゝす乎三六イエス直に其告る

ロ 約十一〇四十、太十七〇一、
ハ 約十一〇十一、
ニ 徒九〇四十、
ホ 路七〇十四、
ヘ 河三〇十二、太八〇四、十二〇十六、路五〇十四、
ト 太十三〇五十四至五十八、路四〇十六至卅、
チ 約七〇十五、
リ 太十三〇五十三、路三〇廿三、約六〇四十二、加一〇十九、
ヌ 太十一〇六、
ル 約四〇四十四、
ヲ 太九〇卅五、路八〇一、
カ 太十〇一、五至十五、路九〇一至六、
ヨ 路廿二〇卅五、徒十二〇八、
タ 徒十三〇五十一、十八〇六
レ 太十一〇廿四、
ソ 路五〇十四、太十四〇一、十二、路九〇七至九、
ツ 太十一〇廿四、

三七 所の言をきゝ會堂の宰に曰けるゝ懼るゝ勿たゞ信せよ三七イエスペテロと
三八 ヤコブ及ろの兄弟ヨハネの外ゝ誰にも共に往ことを許さゞりき三八既に會
三九 堂の宰の家に來りて人々の忙亂いたく哭泣を見る三九入て彼等に曰けるは
四十 何ぞ忙亂かつ哭や女ゝ死るに非たゞ寢たる耳四十彼等イエスを哂笑ふイエ
四一 ス凡の人々を出し女の父母とろの從へる者等を率つれ女の臥たる所に入
四二 四一女の手を執て之に曰けるゝタリタクミ之を譯べ女よ我なんぢゐ命ず起
四三 よといふ義なり四二直ゐ女おきて行めり彼ゝ年十二歳なり彼等はなはだ駭
きぬ四三イエスこの事を人ゐ知する勿れと嚴く戒め又女ゐ食物を與よと命
じたり

三 第六章 イエス此を去て故郷ゐ到しに其弟子も彼に從ひぬ二安息日ゐ及け
れゞ會堂ゐて教をはじむ衆人これを聞て奇み曰けるゝ如何して此人に斯
のごとき事あるか誰より此智慧を授られて如此ふしぎなる事をも其手よ
り行か三彼ゝ木匠ゐ非ずやマリアの子ヤコブヨセユダとシモンの兄弟

四 ゐして其姉妹も此に我儕と共に在に非ずや遂に人々彼に躓けり四イエス
五 彼等に曰けるゝ預言者ゝろの故郷ろの親戚ろの室家の外に於ゝ尊べれざ
六 ることなし五イエス彼處にて患者に手を按たゞ數人を醫しゝ外ふしぎな
七 る事を行ことを能ざりき六また彼等の信せざるを奇み遂に諸鄉を經巡て教
八 をなせり○七イエス十二の弟子を召て彼等を二人づゝ遣さんとして之に
九 惡鬼を逐出す權威を授け八且かれらに命じけるゝ一の杖の外ゝ旅の用意
十 に何をも携なかれ旅袋糧食また金をも携ず九たゞ履をはき二の衣をきる
十一 勿れ十また彼等に曰けるゝ何處にても人の家に入ばろの所を去までゝ其
十二 處に居十一凡て爾曹を接ずなんぢらに聽ざる者には其處を去とき證のため
十三 足下の塵を拂へ我まことに爾曹に告ん審判の日いたらバソドムとゴモラ
十四 ゝ此邑よりも却て易かるべし十二弟子たち出て人々に悔改む可ことを宣傳
へ十三また多の惡鬼を逐出し又多の病る者に膏を沃て醫しぬ○十四イエスの
名播りけれゞヘロデ王これを聞て曰けるゝバプテスマを施しゝヨハネ死

ヲ 太十六〇十四、所八〇廿八、
ム 路三〇十九廿、
ウ 列十八〇十六、廿〇廿一、
井 太廿一〇廿六、
ノ 勅五〇三、六、七〇二、

十五 より甦れる故に奇異なる能をなす也十五或人ハ之をエリヤなりといひ或ハ
十六 往昔の預言者の如き預言者なりと曰十六ヘロデ之を聞て曰けるハ是わが首
十七 斬し所のヨハ子也かれ死より甦りたる也十七曩にヘロデろの兄弟ピリポの
妻ヘロデヤの事に因て人を遣しヨハ子を捕て獄に繫げり蓋ヘロデが彼の
十八 婦を娶しを十八ヨハ子諫て爾兄弟の妻を納ハ宜からぞと曰るに因てなり十九
十九 ヘロデヤ彼を怨て殺さんと欲しかど能ざりき二十ヘロデハヨハ子を義かつ
二十 善なる人と知て彼を敬ひ彼を保護かれに聞て多の事を行ひ且喜びて彼に
二一 聽ことをせり二一斯てヘロデろの誕生の日もろ〳〵の大臣千人の長および
二二 ガリラヤの尊き人々に享宴をなせる機會の日いたりけれど二二ヘロデヤの
女きたりて舞をなしヘロデと其席に列れる人々を樂ましむ王ろの女に曰
二三 けるハ何にても我に求へ爾が望ところの者ハ我なんぢに與ふべし二三又彼
に凡ろ爾が求るものハ我が領分の半に至るとも爾に與んと誓ふ二四女いで
二四 〻其母に何を求べき乎と曰けれど母乃ちバプテスマのヨハ子が首と曰り

オ 太十四〇十三至廿一、路九〇十至十七、約六〇一至十二、
ク 太九〇廿六、來四〇十五、
ヤ 王上廿二〇十七、哀五十三〇六、詩廿四〇五、瑪十〇二、

二五 女たゞちに急ぎ王にきたり求てバプテスマのヨハ子が首を盆に載て即
二六 時に我に賜へと曰二六王甚だ憂けれども既に誓たると同席の者の故とをも
二七 て之を拒むことを欲す二七王たゞちにヨハ子の首を携來れと命じて兵卒を
二八 遣しけれど彼ゆきて獄に於て之を斬二八其首を盆にのせ携來りて女に與ふ
二九 女は之を其母に與たり二九ヨハ子の弟子等この事を聞て來り其屍を取て墓
三十 に葬りぬ〇三十使徒等イエスに集りて行へる事と敎し事とを悉く彼に告三一
三一 イエス彼等に曰けるハ爾曹衆を避て我と偕に暫く寂寞ところに往て休む
三二 べし是往來のもの多して食する暇も無りしが故なり三二かれら人を避舟に
三三 て寂寞ところに往り三三其往を見て衆人おほくイエスをしり諸邑より步行
三四 にて趨り彼等の往んとする所へ先ち往てイエスに集れり〇三四イエス出て
三五 多の人を見に彼等ハ牧者なき羊の如き者なるに因て之を憫み許多の事を
三六 敎はじめぬ三五時すでに暮景にありけれど其弟子かれに來いひけるハ此ハ
寂寞ところにして時も既晚し三六衆人の食ふべき物なきが故に其自ら四周

ヤ 民十一〇十三、廿二〇五下四〇四十三、
ケ 可八〇五、太十五〇廿四、
フ 伴前九〇十三、太廿六〇廿六、
コ 太十四〇廿二至卅六、約六〇十五至廿一、
エ 路廿四〇廿八、

三七 の鄉村に往てパンを市んが爲に彼等を去しめ給へ三七イエス答へるゝ爾曹
これに食を與よ弟子かれに曰けるは我儕ゆきて銀二百のパンを市かれら
三八 に與て食しむ可か三八イエス彼等に曰けるゝパンゝ幾何ある往て視よ彼等
三九 みて其數をしり五のパンと二の魚ありと答ふ三九イエス衆の人を組々にし
四〇 て靑草の上に坐しめよと命じければ四十或ゝ百人或ゝ五十人づゝ列坐せり
四一 四一イエスうの五のパンと二の魚をとり天を仰ぎ謝してパンをわり弟子に
四二 與て人々の前ゑ陳しむ又二の魚を每人に分與ぬ四二衆人みな食て飽四三うの
四三 パンと魚の餘屑を拾しに十二の筐に盈たり四四パンを食たる男およそ五千
四四 人ありき○四五直にイエスうの弟子を强て舟に乘むかふの岸なるベテサイ
四五 ダへ先わたらしめ己ゝ衆人を歸しむ四六衆人を歸しゝのち祈禱の爲に山に
四六 往り四七日暮て舟ゝ海の中に在イエスゝ獨り陸に居り四八風逆ふに因て弟子
四七 等の舟を棹に勞たるを見て曉の四時ごろイエス海の上を履きたり彼等を
四八 過んとせしに四九弟子うの海を履るを見て變化の物ゑらんと意ひ叫びたり

テ 可十六〇十四、
ア 可八〇十七十八、
サ 太九〇廿、可五〇廿七廿八、徒十九〇十二、
キ 太十五〇一三廿、

五〇 蓋弟子みな之を見て懼しが故なりイエス直に彼等に語りて曰けるゝ心
五一 安かれ我なり懼るゝこと勿れ五二遂に舟に登しかば風やみぬ彼等心れ中に
五二 駭き異めること甚だし五三是其心の愚頑に因てパンの奇跡をも覺ざりし也
五三 ○五三既に濟ゲ子サレといふ地に到て舟泊せり五四彼等舟より出しに顧て人
五四 人イエスを知て五五徧く其四方の地へ馳ゆき病る者を床の儘にて舁ひイエ
五五 スの在す處々を聞出して之に就り五六凡ろイエスの至るところ或は鄉ある
五六 ひゝ邑ある村うの街市に病る者を置て彼に其衣の裾にだに捫らせ給
へと求り乃ち捫るほどの者ゝみな愈たり

第七章 五一 パリサイの人と或學者たちエルサレムより來りてイエスの前に集
二 りニ彼の弟子の中に潔らざる手卽ち鹽ざる手にてパンを食する者ありし
三 を見て之を責めたり三蓋パリサイの人とユダヤの人々はみな古の人の遺
四 傳を守りて其手を潔あらいざれば食せず四市より歸きたりて鹽ざれば亦
五 食せず此他か杯椀鍋および牀を洗など多端の遺傳を受守れり五是に於

ユ 西二〇八、
メ 路十一〇廿九四十、
ミ 曷廿九〇十三、
シ 出廿〇十二、申五〇十六、
ヱ 出廿一〇十七、利廿〇九、
ヒ 太十五〇五、廿三〇十八、
モ 羅十四〇十七、
セ 箴四〇廿三、
ス 太十一〇十五、

てパリサイの人と學者等イエスに問けるㇾ爾の弟子ㇾ何ゆゑ古の人の遺傳に遵ㇾずして盥ざる手を以てパンを食する乎六イエス答て彼等に曰けるㇾイザヤㇾ僞善者なる爾曹を指てよく預言せり其錄し〻言に此民ㇾ唇にて我を敬へども其心ㇾ我に遠かりセ人の誡を教と爲て徒らに我を拜すと曰り八夫爾曹ㇾ神の誡を棄て人の遺傳を守れり即ち鍋杯を洗おほく此の如き事を行ふル九また彼等に曰けるㇾ爾曹ㇾ實に己の遺傳を守んとして能も神の誡を棄る者なり十モーセ曰けるㇾ爾の父母を敬へ又父あるひㇾ母を詈る者ㇾ殺るべしと十一然ども爾曹ㇾ曰もし人父あるひㇾ母に對て爾を養ふべき物ㇾコルバン即ち禮物なりと曰べ事ずとも可と十二而して人の其父あるひㇾ母の爲に何をも行事を爾曹許ず十三斯なんぢらㇾ其教る所の遺傳をもて神の道を廢うす又おほく此類の事を行ふ〇十四イエスまた衆庶を召て彼等に曰けるㇾ爾曹みな我言を聞て悟れ十五外より人に入るものㇾ人を汚すこと能ㇾず然ども人より出るものㇾ人を汚す也十六聽ゆる耳ある者ㇾ聽べし〇十七イエス衆庶を離れて室に入しに其弟子たとへの意を問けれバ十八彼等に曰けるㇾ爾曹もなほ悟ざるか凡ろ外より人に入るものㇾ人を汚し能ㇾざる事を知ざる乎十九蓋ろの心に入ず腹に入て厠に遺すなㇾち食ふ所のもの潔れり二十又曰けるㇾ人より出るものㇾ是人を汚す二人の心より出るものㇾ惡念、姦淫、苟合、兇殺、二盜竊、貪婪、惡慝、詭譎、好色、嫉妬、謗讟、驕傲、狂妄なり二三是等の惡行ㇾみな內より出て人を汚すもの也〇二四イエス此を去てツロとシドンの境にゆき家に入て人に知れざらん事を欲しが隱れ得ざりき二五ろㇾ惡鬼に憑たる幼き女を有る婦イエスの事を聞て來り其足下に伏たるに因てなり二六この婦ㇾサイロピニケにうまれしギリシャの者なりしが惡鬼を其女より逐出し給はん事をイエスに求り二七イエス彼に曰けるは先兒女に飽しむべし兒女のパンを取て犬に投るㇾ善らず二八婦こたへて曰けるㇾ主よ然されども犬も案の下に在て兒女の遺屑を食ふ也二九イエス婦に曰けるㇾ此言に因て歸れ惡鬼ㇾ爾の女より出たり三十婦ろの家に歸し

イ 創六〇五、耶十七〇九、
ロ 太十五〇廿一申廿八、

に惡鬼既に出て牀に女の臥たるを見る○三二イエスツロとシドンの地を去
てデカポリスの地を過ガリラヤの海に至れり三三人々聾の訥る者をイエス
に携來りて手を按給はん事を求ければ三三イエス衆人を離れ之を外へ携ゆ
き指を其耳にさしいれ又唾して其舌に捫り三四且天を仰て嘆じ其人に對て
エッバタと曰これを譯べ啓よとの義なり三五直に其耳ひらけ舌の絡ゆるみ
て正く言へり三六イエス之を人に告る勿れと彼等を戒むれば戒むるほど益
言揚しぬ三七衆人はなはだしく駭きて曰けるは此人の行し所ことごとく善
あるひは聾を聽えさせ或は啞者を言いしめたり

第八章　當時あつまれる人々甚だ多りしが何の食物も有ざりければイエス
其弟子を召て曰けるは二我この多の人々を憫む既に三日われと共に居し
ゆゑ今おにも食物おし三もし飢しまゝ其家に歸さば途間にて憊ん其中に
遠處より來れる者あれば也四ろの弟子かれに答けるは此野にて何處より
パンを得この人々を飽しめん乎五イエス彼等に問けるはパン幾何あるや

三一 太十五〇廿九至卅八、
三二 約九〇六、
三三 可八〇十二、約十一〇卅三、
三四 卅五、卅八、
三五 可五〇四十三、
三六 可六〇卅四至四十四、
三七 太十五〇卅二至卅八、

七と答ふ六イエス人々に命じて地に坐せしめ七のパンを取て謝し之をわ
り人々の前に陳しめんが爲ろの弟子に與ければ即ち人々の前に陳り七ま
た小き魚を些須もてり之をも祝して人々の前に陳と曰八人々これを食て
飽ろの餘屑を七の籃に拾り九之を食る者おほよそ四千人なり乃ちイエス
之を歸しぬ○十イエス直に其弟子と共に舟に乘てダルマヌタの方に往し
に十一パリサイの人いでゝ彼を試んがため天よりの休徵を求めて詰はじむ
十二イエス心の中に深く歎息して曰けるゝ此世の人なんぞ休徵を求るや誠
に我なんぢらに告ん休徵ゝ此世の人に必ず與られじ十三イエス彼等を離れ
て復舟に乘むかふの岸に濟れり○十四さて弟子パンを携ふることを忘たる
一のパンのみ舟に有き十五イエス彼等を戒めて曰けるゝ戒心してパリサイ
の人の麪酵とヘロデの麪酵を愼めよ十六弟子たがひに論じて曰けるゝ是パ
ンを携へざりし故ならん十七イエス之を知て彼等に曰けるゝ何ぞ互にパン
を携へざりし事を論ずるや未だ悟ざるか爾曹の心なほ頑か十八目ありて視

六 太十五〇廿九、十六〇一至十二、
七 太十二〇卅八、約六〇卅、
八 路五十二〇三、
九 路十二〇一、

リ 太十四〇廿、約六〇十三、
カ 可七〇卅二、
ヨ 太八〇四、可五〇四十三、太十六〇十三至廿、路九〇十八至廿一、
タ
レ 約六〇六十九、徒八〇卅八、

十九 ざるか耳ありて聽えざる乎また覺ざる乎 十九我五千人に五のパンを擘わたへし時うの餘屑を幾筐ひろひしや答けるハ十二なり 二十又四千人に七のパンを擘わたへし時うの餘屑を幾籃ひろひしや答けるは七なり 二一イエス彼等に曰けるハ何ぞ悟ざる乎〇 二二イエスベテサイダに至ければ人々瞽者を携來りて之に手を按たまハん事を求り 二三イエス瞽者の手を執て村の外へ携出うの目に唾して手を彼に按とひけるハ何か視るや 二四瞽者目を擧て曰けるハ我この人々の歩行を見に樹の如し 二五遂にイエスまた兩手を彼の目に按うの目を擧させければ乃ち愈て庶物あきらかに視たり 二六イエス彼を其家に歸らせ曰けるハ此村に入なかれ且この村人にも告る勿れ〇 二七イエスうの弟子と共にカイザリヤピリピの諸村へゆく途間にて其弟子に問て曰けるハ衆人ハ我を曰て誰とする乎 二八答けるハ或人ハバプテスマのヨハ子或人ハエリヤ或人ハ預言者の一人なりと曰り 二九イエス彼等に曰けるハ爾曹ハ我を曰て誰とする乎ペテロ答けるハ爾ハキリストなり 三十イエス彼

ソ 太十六〇廿一至廿八、路九〇廿二至廿七、太十七〇廿二至廿三、廿〇十七至十九、路廿四〇六七、
ツ 約二〇十九至廿一、
子 路十四〇廿七、彼前四〇二、
ナ 約十二〇廿五、
ラ 太十〇廿三、
ム 羅一〇十六、提後一〇八、
ウ 約廿一〇廿三、
非 太廿四〇卅、路廿一〇廿七、
ノ 太十七〇一至十三、路九〇廿八至卅六、

三一 等を戒めて我事を誰にも告る勿れと命じたり〇 三二また人の子の必ず多の苦難をうけ長老祭司の長學者どもに棄られ且殺されて三日の後に甦ることを彼等に示し始たまへり 三三明に之を示し給しかバペテロイエスを援て諫んとせしに 三三イエス回顧うの弟子を見てペテロを戒め曰けるハサタンよ我後に退け爾ハ神の情を思ず反て人の情を思ふ〇 三四衆人と其弟子を共に召て彼等に曰けるハ若し我に從はんと欲ふ者は己を棄その十字架を負て我に從へ 三五うハ生命を全うせんとする者は之を喪ひ我ため且福音の爲に生命を喪ふ者は之を得べければ也 三六もし人全世界を得とも其生命を喪はゞ何の益あらん乎 三七また人何をもて其生命に易んや 三八姦惡なる此世に於て我と我道を耻る者をバ人の子も亦聖使と共に父の榮光をもて來る時之を耻べし

第九章 三一イエスまた彼等に曰けるは我まことに爾曹に告ん此に立ものゝ中に神の國の權威をもて來るを見までハ死ざる者あり〇 二さて六日の後イ

オ 但七〇九、六世八〇三、

ク 馬四〇五、

ヤ 路世三〇十一、詩四〇十一、

マ 詩世二〇六、詩五十三〇二、十、

エスペテロヤコブヨハネを伴ひ人を避て高山に登り給ひしが彼等の前
三 にて其容貌かはり其衣かがやき白こと甚だしくして雪の如く世上の布
四 漂も勘しろくゝ爲能はざるべし エリヤとモーセと共に彼等に現れてイ
五 エスと語をれり ペテロ答てイエスに曰けるはラビ我儕こゝに居は善わ
六 れらに三の廬を建せ給へ一ゝ主のため一はモーセのため一はエリヤの爲
七 にせん 此ゝ其謂ところを知ざりしなり彼等いたく懼しに因て斯て雲彼
八 等を蔽ひ聲雲より出て曰けるは此は我が愛子なり之に聽べし 頓て弟子
九 環視けれどイエスと己の外ゝ一人をも見ざりき 山を下る時にイエス
彼等に命じて人の子の死より甦る迄ゝ爾曹の見し事を人に告る勿れと曰
十 り 弟子等この言を守かつ互に論じ曰けるゝ死より甦ると云ゝ何の事か
十一 彼等イエスに問て曰けるゝエリヤゝ前に來るべしと學者の曰るゝ何ぞ
十二 や イエス答て曰けるゝ實にエリヤゝ前に來りて萬事を復振また人の子
十三 に就てゝ其各樣の苦難を受かつ輕慢らるゝ事を書しるされたり 然ど我

ケ 太十一〇十三十四、十七〇十二十三、路一〇十七、

フ 太十七〇十四迄廿一、路九〇世七迄四十三、

コ 可十一〇世三、路十七〇六、約十一〇四十、

なんぢらに告んエリヤ既に來しに彼に就て錄されたりし如く人々意の任
十四 に之を待へり 〇 イエス弟子等の所にきたり多の人々の彼等を環圍ると
十五 學者たちの彼等と論じをりしを見たり 衆人たぢちに彼を見て駭き趨よ
十六 りて禮をなせり イエス學者に問けるゝ弟子と何事を論ずる乎
十七 衆人のうち一人こたへけるゝ師よ我もものいゝぬ惡鬼に憑れたる我子を爾に携來
十八 れり 惡鬼の憑時ゝ彼傾跌され沫をふき齒を切て疲勞はつる也これを逐
十九 出さんことを我なんぢの弟子に請しかど彼等能ざりき イエス彼等に答
て曰けるゝ噫信なき世なる哉いつまで我なんぢらと共に在んや何時まで
二十 我なんぢらを忍んや彼を我に携來れ 彼等ゝの子を携來りしに惡鬼イエ
二一 スを見て忽ち彼を拘攣しむ彼地に仆れ輾轉て沫を出ぬ イエスゝの父に
二二 問けるゝ幾何時より如此なりしや父いひけるゝ少時より也 惡鬼若ば
二三 之を火の中あるひゝ水の中に投入て殺んとせり爾もし爲ことを得ゞ
我儕を憫みて助よ イエス彼に曰けるゝ爾もし信ずる事を得ゞ信ずる者

に於て爲あたゝざる事なし二四其子の父たゞちに聲をあげ涙を流して曰けるゝ主よ我信ず我が信なきを助たまへ二五イエス衆人の趨集るを見て惡鬼を叱いひけるゝ啞にして聾なる惡鬼よ我なんぢゐ命ず出て再び之に入なかれ二六惡鬼さけびて大に彼を拘攣しめて出しかゞ彼死たる者の如なりぬ人々これを已に死りと云二七イエスろの手を執て扶けれゞ彼たてり○二八イエス家に入しに其弟子ひそかに問けるゝ我儕これを逐出すこと能ざりしゝ何故ぞ二九イエス彼等に曰けるゝ此族ゝ祈禱と斷食に非れゞ逐出すこと能ざる也○三十彼等こゝを去てガリラヤを過この事をイエス人の知を欲ざりき三一蓋ろの弟子に敎て人の子ゝ人の手に付され彼等に殺され殺されてのち第三日に甦るべしと曰たまふが故なり三二其とき弟子等この言を曉らず亦問ことを恐たり○三三偖イエスカペナウンに至り室に居て弟子に問けるゝ爾曹途間にて何を互に論せし乎三四弟子默然たり是途間にて互に論じ誰か大ならんとの爭ありけれゞ也三五イエス坐して其十二を召かれらに曰

エ 太十七〇廿二廿三、廣九〇四十四四十五、
オ 路廿四〇廿五廿六、馬十二〇十六、十六〇十七十八、
ア 太十八〇一至九、路九〇四十六至五十、
サ 路廿二〇廿四、

けるゝ若し首たらんと欲ふ者ゝ凡の人の後となり且すべての人の使役となならん三六また孩提を取て彼等の中に立て之を抱き彼等に曰けるゝ三七凡ろ我名の爲に斯のごとき孩提の一人を接る者ゝ即ち我を接るなり又われを接る者ゝ即ち我を接るに非ず我を遣しゝ者を接るなり○三八ヨハネ彼に答て曰けるゝ師よ我儕に從ゝざる者の爾の名に托て惡鬼を逐出せるを見しが我儕に從ゝざる故これを禁たり三九イエス曰けるゝ其人を禁る勿れ蓋わが名により異なる能を行ひて輕易しく我を誹得る者ゝあらじ四十我儕に敵たゝざる者ゝ我儕に屬者なり四一爾曹をキリストに屬者として我名の爲に一杯の水にても爾曹に飲する者ゝ我まことに爾曹に告ん其人ゝ賞を失ゝざる也四二また凡ろ我を信ずる小子の一人を礙する者ゝ其首に磨を懸られて海に投入られん方ろの人の爲になほ善るべし四三若し爾の一手なんぢを礙かさゞ之を斷され兩手わりて地獄すなゝち滅ざる火に往んよりゝ殘缺にて永生に入ゝ爾の爲に善ことも也四四彼處に入ものゝ蟲つきず火きえず四五

キ 太廿〇廿六廿七、可十〇四十三、
ユ 可十〇十六、
メ 太十〇四十、
ミ 民十一〇廿六至廿九、路九〇四十九、哥前十二〇三、
シ 太十〇四十二、
ヒ 路十七〇二、
モ 太五〇卅、哥前九〇廿七、加五〇廿四、
セ 賽六十六〇廿四、太三〇十二、

若なんぢの一足あんぢを礙かさゞ之を斷され兩足ありて地獄すなわち滅
四六 ざる火に投入られんよりわ破にて永生に入は爾の爲に善なり四六彼處に入
四七 もの〳〵蟲つきず火きえず四七もし爾の一眼あんぢを礙かさゞ之を抉いだせ
りやうがん　なんぢ　つまづ　ぬき
兩眼ありて地獄の火に投入られんよりわ一眼にて神の國に入わ爾の爲に
四八 善なり四八彼處に入もの〳〵蟲つきず火きえず四九蓋すべての人わ鹽をつくる
四九 如く火を以せられ凡の祭物わ鹽をもて鹽つけらる五十鹽わ善ものあり然ど
五十 鹽もし其味を失わゞ何をもて之に味を加んや爾曹心の中に鹽を有て又た
がひに睦み和ぐべし

第十章

二 イエス此を去ヨルダンの外を經てユダヤの境の内に來しに多の人
人また彼に集りければ恒の如く彼等に教誨を爲たまへり
三 ニパリサイの人來て彼を試み問けるわ人りの妻を出すわ可か三答て曰けるわモーセわ爾
四 曹に何と命せし乎四彼等曰けるわモーセわ離縁狀を書與へて之を出すと
五 を許せり五イエス答て彼等に曰けるわモーセ爾曹の心つれなきに因て此

ス 約二〇十三、路四十三〇廿
四、
太五〇十三、路十四〇前四、
イ 約四〇廿九、西四〇六、
ロ 來十二〇十四、
ハ
ニ 太十九〇一二、約十〇四十、
十一〇七、
ホ 太十九〇三至九、
ヘ 太五〇廿二、

命を爲たる也六然ど開闢のはじめ神人を男女に造り給へり七是故に人わ
六 りの父母を離りの妻に合て八二人のもの一體と成べし然ゞ二にわ非ず一
七 體あり九是故に神の耦せ給へる者わ人これを離すべからず〇十室に在て
八 弟子等また此事を問けれゞ十一イエス彼等に曰けるは凡り其妻を出して他
九 の婦を娶る者わ其妻に對して姦淫を行ふなり十二また婦もし其夫を出して
十 他に嫁がゞ此婦も姦淫を行ふなり〇十三イエスに撫れんがため人々孩提を
十一 携來ければ弟子等りの携來れる者を責めたり十四イエス之を見て怒を含か
十二 れらに曰けるは孩提を我に來せよ彼等を禁る勿れ神の國に居もれは斯れ
十三 如き者なり十五誠に我あんぢらに告ん凡り孩提の如くに神の國を承ざる者
十四 わ之に入ことを得ざる也十六即ち彼等を抱て手をりの上に按これを祝せり
十五 〇十七イエス途に出けるに一人はしり來りて跪き問けるは善師よ我かぎり
十六 あき生命を嗣ためにに何を行べき乎十八イエス彼に曰けるは何ぞ我を善と稱
十七 や一人の外に善者わなし即ち神なり十九誠は爾が識ところなり姦淫する勿
十八
十九

ト 朝一〇廿七、五〇二、
チ 約二〇廿四、前五〇廿一、哥
前六〇十六、
リ 太五〇廿二、路十六〇十八、
ヌ 太十九〇十三至十五、路十
八〇十五至十七、
ル 哥前二〇二、
ヲ 太十八〇三、
リ 太十九〇十六至廿、路十八
〇十八至廿、
カ 出廿〇十二至十六、

ヰ 太六〇十九廿、路十二〇卅三、

ダ 詩五十二〇七、提前六〇十七、

レ 耶前二〇十七、路一〇卅七、

二〇 れ殺なかれ盗かかれ妄の證を立る勿れ拐騙かかれ爾の父と母を敬へ 二〇答て
二一 曰けるは師よ是みな我が幼きより守れるもの也 二一イエス彼を見て愛み
二二 曰けるは爾かは一を虧ゆきて其所有をうり貧者に施せ然ば天に於て財わ
二三 らん而して來り十字架を操て我に從へ 二三彼この言に因て哀み憂て去ぬ彼
二四 は大なる產業を有る者かれなり 二四イエス環視てうの弟子に曰けるは財
二五 を有る者の神の國に入は如何に難かな 二五弟子この言を駭けりイエス復こ
二六 たへて彼等に曰けるは小子よ財を恃む者の神の國に入は如何に難かか 二六
二七 寧者の神の國に入よりは駱駝の針の孔を穿るは却て易し 二七弟子たち甚く
二八 駭き互に曰けるは然ば誰か救を受べき乎 二八イエス彼等を見て曰けるは是
二九 人には能ざる所なれど神に於ては然らず神は能ざる所なければ也 二九是に
三〇 於てペテロ彼に曰けるは我儕一切を舍て爾に從へり 三〇イエス答て曰け
三一 るは誠に爾曹に告ん我と福音の爲に家宅あるひは兄弟あるひは姉妹あるひ
三二 は父あるひは母あるひは妻あるひは兒女あるひは田疇を舍る者は 三一この

ソ 徒十四〇廿二、提後三〇十一、

ツ 路十三〇卅、

ネ 太廿〇十七至十九、路十八〇卅一至卅四、

ナ 可八〇卅一、路九〇廿二、

ラ 太廿〇廿至廿八、

ム 詩四十二〇七、箴三〇五十四、箴廿六〇十九、

三三 世にて百倍を受ざる者なし即ち家宅、兄弟、姉妹、母、兒女、田疇を迫害と共
三四 に受又後の世には窮なき生を受ん 三五然ども多の先なる者は後になり後なる
三五 者は先になるべし〇 三六偖彼等エルサレムに上る途間イエス弟子に先ち行
三六 ければ彼等おぞろき且おそれて從へりイエス十二を伴ひて將に己に及ん
三七 とする事を彼等に告給ひけるは 三八我儕エルサレムに上り人の子は祭司の
三八 長と學者等に付れん彼等これを死罪に定め異邦人に付し 三九又これを嘲弄
三九 し鞭ち唾し且これを殺ん斯て第三日に甦るべし〇 四〇ゼベダイの子ヤコブ
四〇 とヨハネ子イエスに來りて曰けるは師よ我儕が求る事を願くは我儕に成た
四一 まへ 四一彼等に曰けるは爾曹に我が何を成ん事を欲ふや 四二彼等いひけるは
四二 爾榮を得んとき我儕の一人を其右に一人を其左に坐せしめよ 四三イエス彼
四三 等に曰けるは爾曹は求ふ所を知ず爾曹わが飲ところの杯を飲わが受る所
四四 のバプテスマを受得るや 四五彼等いひけるは能すべしイエス彼等に曰ける
四五 は爾曹は實に我が飲ところの杯を飲また我が受る所のバプテスマを受べ

ウ 路廿二〇廿五至廿七、
非 可九〇廿五、路九〇四十八、
ノ 路二〇七、
オ 提前二〇六、多二〇十四、
ク 太廿〇廿九至卅四、路十八〇廿五至四十三、

四十 し四十然ども我が右左に坐する事ハ我が予ふべきに非たず備られたる者ハ子
四一 らるべし四一十人の弟子これを聞てヤコブとヨハネを憤れり四二イエス彼等
四二 を召て曰けるハ異邦人の君と見る者ハ其民を治また大なる者どもハ彼等
四三 の上に權を執これ爾曹が知ところ也四三然ども爾曹の中にてハ然す可らず爾
四四 曹のうち大あらんと欲ふ者ハ爾曹に役るゝ者とならん四四また爾曹のうち
四五 首たらんと欲ふ者ハ凡の人の僕とならん四五蓋人の子の來るも人を役ふ爲
に非ず反て人に役ハれ且おほくの人に代りの命を予て贖とならん爲なり
四六 ○四六斯て彼等エリコに至りイエスろの弟子と大なる群集の人々と共にエ
リコを出る時テマイれ子なるバルテマイといふ瞽者路の旁に坐して乞ぬ
四七 けるが四七ナザレのイエスありと聞て呼り曰けるハダビデの裔イエスよ我
四八 を憐み給へ四八多の人々これに緘默と戒めけれども愈よゞゝりてダビデの
四九 裔よ我を憐み給へと曰ければ四九イエス立止りて彼を召と命じければ人々
五十 瞽者を召て彼に曰けるは心を安んせよ起イエス爾を召五十瞽者ろの表衣を

ヤ 太九〇廿二、可五〇卅四、
マ 太廿一〇一至十一、十四至十七、路十九〇廿九至卅八、約十二〇十二至十五、
ケ 約十二〇十一、十八、
フ 可九〇九、
コ 約百十八〇廿六、

五一 棄たちてイエスに來れり五一イエス答て彼に曰けるハ爾われに何を爲れん
五二 と欲ふや瞽者いひけるハ主よ見なん事を欲ふ五二イエス彼に曰けるハ往な
んぢの信仰なんぢを救へり直に彼見ることを得イエスに從ひて路を行り
かれら橄欖山のベテパゲとベタニヤに至りエルサレムに近ける
三 時イエス二人の弟子を遣さんとして三彼等に曰けるハ爾曹對面の村に往
かしこに入ば頓て人の未だ乘ざる所の繫げる驢馬の子を見べし其を解て
四 牽來れ四もし誰か爾曹に何ゆゑ然する乎といふ者あらば主の用なりと曰
さらば直に其を此に遣るべし四彼等ゆきて門の外の岐路に繫げる驢馬の
五 子を見て之を解ければ五其處に立る人々のうち或人かれらに曰けるハ此
六 驢馬の子を解て如何する乎六弟子イエスの命せし如く曰しかば遂に許た
七 り七弟子驢馬の子をイエスに牽きたりて己が衣を其上に置ければイエス
八 これに乘り八人々おほくハ其衣を路上に布あるひハ樹の枝を伐て路上に
九 布九かつ前にゆき後に從ふ人々呼り曰けるハホザナよ主の名に託て來る

エ 詩百四十八〇一、
テ 太廿一〇十八十九、
ア 太廿一〇十二十三、路十九〇四十五至四十八、約二〇十四至十七、
サ 撒五十六〇七、
キ 耶七〇十一、太廿一〇四十五四十六、
メ 太七〇廿八、路四〇卅二、太廿一〇十九至廿二、

十 者ハ福なり十主の名に託て來る我儕の父なるダビデの國ハ福なり至上處
十一 にホザナよ○十一イエスエルサレムに至り聖殿に入て悉くみまはし時すで
十二 に暮に及れば十二と偕にベタニヤに出往り○十三明日彼等ベタニヤより
十三 出し時イエス饑たり十四遙に葉ある無花果の樹を見てうの樹に何か有んと
十四 て來しに葉の他なにも見ざりき是無花果樹の時に非れば也十四イエス此樹
に對て今よりのち永久も爾の果を食ふ人あらざれといふ弟子これを聞り
十五 ○十五彼等エルサレムに至りイエス殿に入てうの中にをる賣買する者を殿
十六 より逐出し兌銀者の案鴿を鬻者の椅子を倒し十六かつ器具を以て殿を過
十七 ることを許さず十七また彼等に諭て曰けるハ我室ハ萬國の人の祈禱の室と
十八 稱らるべしと錄されたるに非や然るに爾曹ハ之を盜賊の巣と爲り十八學者
と祭司の長これを聞て如何してかイエスを喪さんと謀しが彼を懼たり蓋
十九 人々みな其教に駭きたれば也○十九日くれてイエス城邑を出行り二十翌朝か
二十 れら無果花の樹を過る時うの根より盡く枯たるを見る二十一ペテロ憶出てイ
二一

シ 太十七〇廿、路十七〇六、
ス 約十四〇十三、十五〇七、路一〇五六、
セ 太六〇十二、十四十五、西三〇十三、
モ 太十八〇卅五、路二〇十三、
ヲ 太廿一〇廿三至廿七、路廿〇二至八、

二二 エスに曰けるハラど見よ詛し所の無花果樹ハ枯たり二三イエス答て彼等に
二三 曰けるハ神を信せよ二三誠に我なんぢらに告ん誰にても其心に疑ふ事なく
其いふ所の言ハ必ず成べしと信じ此山に移て海に入といハ其言の如く
二四 成べし二四是故に我なんぢらに告ん凡うの祈禱の時うの求ふ所のものハ必ず
二五 得べしと信せば必ず得べし二五又なんぢら立て祈禱する時もし人を憾こと
二六 有ば之を免せ蓋天に在す爾曹の父に爾曹も亦うの過を免されん爲なり二六
もし爾曹免さずば天に在す爾曹の父も亦なんぢらの過を免し給ハじ○二七
二七 彼等またエルサレムに至りイエス殿を行るとき祭司の長學者および長老
二八 等きたりて二八彼に曰けるハ何の權威を以て此事を行や誰が此事を行べき
二九 爲に爾に此權威を與しや二九イエス答て彼等に曰けるハ我も一言なんぢら
に問ん我に答よ然ば我なんぢらに何の權威を以て之を行といふ事を告べ
三十 し三十ヨハネのバプテスマハ天よりか人よりか我に答よ三一彼等たがひに論
三一 じ曰けるハ若し天よりと云ば然ば何故かれを信せざるかと曰ん三二もし人
三二

ス 太十四〇五、可六〇廿、
イ 太廿一〇卅三至四十六、路廿〇九至十九、
ロ 詩百十八〇廿二廿三、

二三 よりと云へ彼等民を懼たる也蓋民みなヨハネを預言者と爲に因三三遂に答
て知ずと曰イエス答て曰けるハ我も何の權威を以て之を行か爾曹に語じ
譬喩 二 イエス譬をもて彼等に語れり或人葡萄園を樹り籬を環し酒榨を
ほり塔をたて農夫に租與て他の國へ往しが三期いたりければ葡萄園の果
を收取ん爲に僕を農夫の所に遣しけるに三農夫等これを執へ打撲きて徒
四 く返しめたり四また他の僕を彼等に遣しゝに農夫等これを石にてうち首
に傷つけ辱しめて返しむ五又ほかの者を遣しゝに之をも殺せり又ほかに
六 多く遣しゝに或ハ撲あるひハ殺しぬ六爰に一人の愛子ありけるが此わが
七 子ハ敬ふならんと曰て遂に其子を遣しゝに七農夫等たがひに曰けるハ此
八 ハ嗣子なり，率これを殺さん然ば產業ハ我儕の者とならん八乃ち執へて之
九 を殺し葡萄園の外に棄たり九然ば葡萄園の主人あにを爲べきか彼きたり
十 て農夫等を打滅し葡萄園を他の人に託ふべし十工匠の棄たる石ハ屋の隅
十一 の首石と成り十一これ主の成たまへる事にして我儕の目に奇とする所あり

十二 と錄されしを未だ讀ざる乎十二彼等この譬ハ己等を指て語れりと知イエス
十三 を執んとせしかども衆人を懼てイエスを去ゆけり〇十三彼等イエスを其言
十四 に由て陷いれんとしてパリサイの人とヘロデの黨の中より數人を遣せり
十五 遣されし者等イエスの所に來り曰けるハ師よ爾ハ眞なる者なり又誰に
十六 も偏らざる事を我儕ハ知ろハ貌に依て人を取ず誠を以て神の道を敎れば
十七 なり貢をカイザルに納るハ宜や否われら納べきか納ざる可か十五イエスろ
十八 の實ならざるを知て彼等に曰けるハ何ぞ我を試るやデナリを携來りて我
十九 に觀よ十六かれら携來りければイエス彼等に曰けるハ此像と號ハ誰か答て
二十 カイザルなりと曰十七イエス曰けるハカイザルの物ハカイザルに歸し又神
二十一 の物ハ神に歸すべし彼等これを奇とせり〇十八復生なしと曰なせるサドカ
イの人きたりてイエスに問けるハ十九師よ我儕にモーセが書遺るにハ人の
兄弟もし子なくして妻を留し死べろの兄弟この妻を娶て兄弟の裔を立べ
しと二十爰に七人の兄弟ありしが長子妻をめとり子なくして死二第二の者

ホ 詩廿三〇八、太廿二〇廿三至廿三、路廿〇廿七至四十、
ヘ 申廿五〇五、
ト 申廿五〇五、
ハ 詩七〇廿五、出四十四、太廿二〇十五至廿二、路廿〇廿彩廿六、

チ 詩前十五〇四十二、四十九、五十二、
リ 詩三〇六、
ヌ 太廿二〇卅四至四十、
ル 申六〇四五、
ヲ 利十九〇十八、加五〇十四、路二〇八、

二二 これを娶また子おくして死し三第三もまた然す七人みな之を娶たれど子な
二三 く終にんこの婦も死り三三復生の時かれら甦らば此婦んは誰の妻と爲べきか蓋
二四 七人おなじく之を娶たれば也三四イエス答て彼等に曰けるん爾曹ん聖書を
二五 も神の能をも知ざるに因て謬れるならず平三五ろれ死より甦る時ん娶ず嫁
二六 がず天にある使者等の如し三六死し者の甦る事に就てんモーセの書棘中の
二七 篇に神かれに語て我んアブラハムの神イサクの神ヤコブの神なりと曰た
二八 まひしを爾曹讀ざる乎三七神ん死し者の神に非ず生る者の神なり爾曹大に
二九 謬れり〇二八學者の一人彼等の議論を聞てイエスの善これに應しを知きた
三十 り彼に問けるん諸誡のうち何れ首なる平二九イエス彼に答けるん諸誡
の首んイスラエルよ聽け主なる我儕の神ん即ち一の主なり三十あんぢ心を
三一 盡し精神を盡し意を盡し力を盡し主なる爾の神を愛すべし是誡の首なり
三二 第二も亦これに同じ己の如く爾の隣を愛すべし斯より大なる誡なし三三
學者イエスに曰けるん善かな師よ爾神ん即ち一にして他に神なしと曰し

ヴ 詩前十五〇廿二、何六〇六、撒六〇六至八、
カ 太廿二〇四十一至四十六、路廿〇四十一至四十四、
ヨ 詩百十〇一、
タ 路廿〇四十五、四十七、
レ 太廿三〇一至七、
ソ 路十一〇四十三、
ツ 太廿三〇十四、
子 路廿一〇一至四、
ナ 王下十二〇九、

三三んこと誠なり三三また心を盡し智慧を盡し精神を盡し力を盡して之を愛し又お
三四のれの如く隣を愛するん諸の燔祭と禮物よりも愈なり三四イエス彼が道理
三五を知る答を見て之に曰けるん爾神の國より遠からず此のち敢てイエスに
三六問者なかりき〇三五イエス殿に在て敎誨を爲る時かれらに答て曰けるん何
三七ぞ學者んキリストをダビデの裔といふ平三六夫ダビデ聖靈に感じて自いふ
三八主わが主に曰けるん我なんぢの敵を爾の足臺となすまで我右に坐せよと
三九如此ダビデ自ら彼を主と稱たり然ば如何で其裔ならんや多の人々喜び
四十てイエスに聞こと爲り〇三八イエス敎をなせる時かれらに曰けるん長き
四一衣服を衣てあるき市上にて人の問安三九會堂の高坐筵席の上座を好四十また
四二嫠婦の家を呑いつはりて長き祈をする學者を謹防よ彼等の審判るゝこと
四三尤も重し〇四一イエス賽錢の箱に對て坐し人々の錢を箱に入るを見たまひ
しに多の富者ん多く投入たり四二一人の貧き嫠婦きたりてレプタ二を投入
る此ん四厘はどに直れり四三イエスりの弟子を召て彼等に曰けるん誠に我

ウ 馬後八〇十二、
ム 太廿四〇一至十四、路廿一〇五至十九、
ウ 路十九〇四十四、
非 那廿九〇八、出五〇六、歴前巨編二〇三、
ノ 徒十一〇廿八、
オ 太十〇十七至廿二、

四四 なんぢらに告げん箱に投入し凡の人々よりも此貧き嫠婦は多く投入たり四四
ろゐ彼等ゐ皆ゐの餘れる所を以て入この婦ゐうの不足ところより其すべ
ての所有すゐゐち全業を盡く入たれば也

二 イエス聖殿より出ければ一人の弟子かれに曰けるゐ師よ觀たま
へ此石この殿宇いかに盛んならず乎ニイエス答て曰けるゐ爾曹この大な
三 る殿宇を見か一の石も石の上に圮れずしてゐ遺じ三イエス橄欖山にて殿
四 に對ひ坐し給しにペテロヤコブヨハ子アンデレ窃に問けるゐ四何の時
五 此事あるや又すべて此事の成ん時ゐ如何ある兆あるや我儕に告たまへ五
六 イエス答て彼等に曰けるゐ人に欺かれざるやう慎めよ六蓋おほくの人わ
七 が名を冒來り我ゐキリストなりと曰て多の人を欺くべし七爾曹戰と戰の
八 風聲を聞とき懼るゝ勿れ是等の事ゐみな有べきあり然ども末期ゐ未だ至
九 らず八民ゐ起て民をせめ國ゐ國を攻また隨在に地震あり饑饉變亂あり是
等ゐ苦難の始なり九爾曹みづから慎めよ蓋なんぢら集議所に付され又會

ク 路十二〇十一、十二、
ヤ 徒四〇八、前一、マ 羅七〇六、
ケ 約十七〇十四、
フ 但十二〇十二、默二〇十、太廿四〇十五至四十四、路廿一〇廿至廿六、
コ 但九〇廿七、
エ 但九〇廿六、十二〇一、十二〇二、
テ 路廿三〇廿九、
ア 但九〇廿六、十二〇一、十二〇二、

十 堂にて撻たれ且證を爲んため我事に因て侯および王の前に曳立らるべし
十一 十而して福音ゐまづ萬民に宣傳ざるを得ず十一人なんぢらを曳解さゐ以前
より何を言んと慮また思煩ふ勿れ惟なんぢら其とき賜ふ所の言を曰べし
十二 蓋ものいふ者ゐ爾曹に非ず聖靈なり十二兄弟ゐ兄弟を死に付し父ゐ子を付
十三 し亦子ゐうの父母に逆ひて之を死しめ十三又なんぢらゐ我名に緣て凡の人
十四 に憎るべし然ども終まで忍ぶ者ゐ救るゝことを得ん十四預言者ダニエルが言し
所の殘暴にくむ可ものゝ立べからざる所に立を見ば（讀者よく思べし）其
十五 時ユダヤにをる者ゐ山に避れよ十五屋上にをる者ゐ室に下る勿れ又物を取
十六 十七 んとて其家に入なかれ十六田にをる者ゐ其衣服を取んとて歸る勿れ十七其日
十八 にゐ孕る者と乳を哺する婦ゐ禍なる哉十八なんぢら冬にぐることを免れん
十九 爲に祈れ十九其日に患難あらん此の如き患難ゐ神の物を創造たまひし開闢
二十 より今に至るまで有ざりき亦後にも有じ二十もし主ろうの日を減少し給ずば
一人だに救るゝ者なし然ども主の選たまへる所の選れし者の爲に其日を減

ヰ 路十七〇廿三、廿一〇八、
キ 彼後三〇十七、
ユ 帯一〇十五、
メ 個七〇十三十四、太十六〇廿七、徒一〇十一、猛後一〇七、十、默一〇七、

二一 少し給ふべし二二其時もしキリスト此にあり彼に在と爾曹にいふ者あると
二二 も信ずる勿れ二三ろん僞キリスト僞預言者おこりて休徴と奇能を行ひ選
二三 れたる者をも欺くことを得べ欺くべけれべ也二三なんぢら愼よ我預じめ爾
二四 曹に盡く之を告二四厥時この患難のゝち日ん晦く月ん光を失ひ二五天の星ん
二五 おち天の勢ひ震ふべし二六其とき人々ん人の子の大なる權威と榮光を以て
二六 雲の中に現れ來るを見ん二七また其とき人の子ろの使者等を遣して地の極
二七 より天の極まで四方より其選れし者を集むべし二八夫なんぢら無花果樹に
二八 由て譬を學ろの枝すでに柔かにして葉めぐめば夏の近を知二九此の如く爾
二九 曹も凡て是等の事を見べ時ちかく門口に至ると知三〇われ誠に爾曹に告ん
三〇 是等の事ことゞく成までん此民ん逝ざるべし三一天地ん廢んぜども我言ん
三一 廢じ三二其日ろの時を知者ん惟わが父のみあり天にある使者も子も誰も知
三二 者なし〇三三此日いづれの時きたる乎を知ざれば爾曹つゝしみて目を醒し
三三 祈禱せよ三四ろれ人の子ん遠行せんとして其權を僕等に委ね各に爲べき事
三四

ヲ 太廿四〇四十二、四十四、
カ 太廿六〇十六、路廿二〇一五六、
モ 約十二〇一五八、
ス 申十五〇十一、

三五 を任け又閽者に怠らず守れと命じて家をさる人の如し三五是故に爾曹も怠
三六 らずして守れ蓋家の主人あるひん夕あるひは夜半あるひん鷄鳴時ある
三七 ひん早晨に歸るかを知ざれば也三六恐くん不意の時きたりて爾曹が眠るを
見ん三七われ怠らずして守れと爾曹に告るん即ち凡の人に告るなり

第十四章

さて逾越即ち除酵節の二日前に祭司の長と學者たち詭計を
以てイエスを執へ殺さんとし二曰けるん祭の日にん爲べからず恐くは民
の中に亂起らん〇三イエスベタニヤの癩病人シモンの家にて食し居たま
へる時ある婦罎石の盒に價貴きナルドの香膏を盛て携來り其盒を裂りイ
エスの頭に膏を沃たり四或人々互に怒を含いひけるん此膏を糜すん何故
ぞや五之を鬻ば三百有奇のデナリを得て貧者に施すことを得んと此婦を言
咎む六イエス曰けるん彼に係る勿れ何ぞ此婦を擾すや我に善事を行へる
也七貧者ん常に爾曹と偕に在べ爾曹意に隨せて彼等を濟ることを得べ
し我ん常に爾曹と偕に在ず八此婦ん力を盡して作り蓋あらかじめ我を葬

イ 太廿六〇十七至十九、路廿二〇七至十三、

る爲わが身ゐ膏を沃しなり九我まことに爾曹に告ん天の下いづくにても此福音を宣傳らるゝ處には此婦の行し事も亦ろの記念の爲に言傳らるべし十さて十二の一人なるイスカリヲテのユダイエスを付さんとて祭司の長に往しに十一彼等これを聞て悅び銀子を予んと約せしかゞユダゝイエスを付さんと機を窺へり〇十二除酵節の首の日すなゝち逾越の羔を殺すべき日弟子イエスに曰けるゝ逾越の食を何處へ往て我儕備ふべき乎十三イエス二人の弟子を遣さんとして之に曰けるゝ京城に往さらゞ水を盛たる瓶を擎る人に遇べし之に從へ十四ろの入ところの家の主人に師いふ我弟子と偕に逾越を食すべき客房ゝ安に在やと曰十五然れゞ彼陳設たる大なる樓房を爾曹に示べし我儕の爲に其處に備よ十六弟子ゆきて京城に入しにイエスの曰たまへる如く遇しかゞ逾越の備をなせり〇十七日暮てイエス十二の弟子と偕に來れり十八かれら席に就て食する時イエス曰けるゝ誠に我なんぢらに告ん我と偕に食する爾曹のうち一人われを賣すべし十九彼等憂て各

ロ 太廿六〇廿五至廿九、路廿二〇十四、廿一至廿三、約十三〇廿一至廿六、

二十 各イエスに言出けるゝ我なる乎また他の一人も曰けるゝ我なる乎二十一イエス答て曰けるゝ十二の中の一人われと共に手を盂に着る者是なり二十二人の子ゝ己に就て錄されたる如く逝ん然ども人の子を賣す者ゝ禍なる哉ろの人ゝ生ざりしならゞ幸なりし爲ん二十三かれら食する時イエスパンを取て祝し之を擘かれらに予て曰けるゝ取て食へ此ゝ我身なり二十四また杯を取て謝し彼等に予けれゞ皆この杯より飲り二十五イエス曰けるゝ此ゝ新約の我血にして衆の人の爲に流す所のもの也二十六我まことに爾曹に告ん今よりのち新しきものを神の國にて飲ん日までゝ葡萄にて製るものを飲じ〇二十七彼等歌を詠て橄欖山に往り二十八イエス彼等に曰けるゝ今夜ゐんぢら皆われに就て礙かん蓋われ牧者を擊ん其とき綿羊散べしと錄されたれゞ也二十九然ども我よみがへりて後なんぢらに先ちガリラヤに往べし三十ペテロイエスに曰けるゝ假令みな礙くとも我ゝ然らず三十一イエス彼に曰けるゝ我まことに爾に告ん今日この夜鷄二次鳴まへに爾三次われを知ずと曰ん三十二彼また力言いひ

イ 太廿六〇廿一至廿五、路廿二〇廿一至廿八、約十三〇廿六至廿八、

ロ 太廿六〇廿六至廿九、路廿二〇十九廿一、約廿一〇廿三廿五、

ハ 太廿六〇廿一至廿五、路廿二〇廿一至廿八、約十三〇廿六至廿八、

ニ 路九〇十四至廿二、十〇四至十四、

ホ 約廿一〇二、

ヘ 太廿六〇廿一至廿五、路廿二〇廿一至廿八、約十三〇廿六至廿八、

ト 路十三〇七、

チ 可十六〇七、

リ 太廿六〇卅六至四十六、路廿二〇卅九至四十六、
ヌ 約十二〇廿七、
ル 羅八〇十五、加四〇六、來五〇七、
ヲ 約五〇廿、六〇廿八、
ワ 約十三〇一、
カ 太廿六〇四十七至五十六、路廿二〇四十七至五十三、約十八〇三至十二、

三三 けるゝ我ゝ爾と偕に死るとも爾を知ずと曰ひ弟子みな如此いへり三三斯て
三四 彼等ゲッセマネといふ所に至りイエスろの弟子に曰けるゝ祈る間こゝに
三五 坐せよ三三遂にペテロヤコブヨハネを伴ひゆき甚しく憂へ哀を催し三四彼
三六 等に曰けるゝ我心いたく憂て死ばかりなり爾曹こゝに待て目を醒し居三五
三七 イエス少し進行て地にふし祈り曰けるゝ若かなべ此時を去しめ給へ三六
三八 また曰けるゝアバ父よ爾に於てゝ凡の事能ざるなし此杯を我より取た
三九 まへ然ども我が欲ふ所を成んとするに非ず爾が欲ふ所に任せ給へ三七イエス
四〇 來りて彼等の寢たるを見ペテロに曰けるゝシモンなんぢ寢たるか一時も
四一 目を醒し居こと能ざる乎三八誘惑に入ぬやう目を醒かつ祈ろの心神ゝ願な
四二 れども肉體よわき也三九復ゆきて同言を曰て祈れり四十返りて復彼らの寢たる
四三 を見る此ゝ彼等ろの目倦たるなりイエスに何と對ふ可やを知ざりき四一三
次きたりて彼等に曰けるゝ今ゝ寢て安め充分なり時いたれり人の子ゝ罪
人の手に賣さるゝ也四二起よ我儕ゆくべし我を賣す者近けり〇四三斯いへる

タ 太廿六〇五十七至十二、路廿二〇四十四、
レ 太廿六〇五十七五十八、路廿二〇五十四、約十八〇十三、
ソ 太廿六〇五十九至六十八、路廿二〇六十三至七十一、

四四 時たゞちに十二の一人なるユダ刃と棒とを携たる多の人々と共に祭司の
四五 長學者及び長老の所より來る四四イエスを賣者かれらに號をなして曰けるゝ
四六 我が接吻する者ゝ其なり之を執て愼と曳去よ四五即ち來りてイエスに近
四七 よりラビ、ラビと曰て接吻せり四六人々手をイエスに措て執ふ四七傍に立る
四八 者の一人刃を拔て祭司の長の僕を擊ろの耳を削り四八イエス答て彼等に曰
四九 けるゝ刃と棒とをもち盜賊を執る如くして我を執に來る乎四九われ日々な
五〇 んぢらと共に殿にて敎しに爾曹われを執ざりき然ども此ゝ聖書に應せんが
五一 爲なり五〇弟子みなイエスを離て奔去ぬ五一一少者ろの身にたゞ麻の夜具
五二 を蔽てイエスに從ひたりしが逮捕の者等これを執ければ五二かれ麻の夜具
五三 をすて裸にて逃去り〇五三衆人イエスを祭司の長に携往けるに祭司の長長
五四 老および學者等こゝに集れり五四ペテロ遠く離れてイエスに
五五 從ひ祭司の長の庭の内まで入僕と共に坐して火に煙まり居り五五祭司の長
五六 および議員みなイエスを殺んとして證を求れども得ず五六多の人々イエス

ツ 詩卅五〇十一、
子 可十五〇廿九、約二〇十九、
ナ 賢五十三〇七、
ラ 太廿四〇卅、
ム 賢五十〇六、
ウ 太廿六〇五十八、六十九至七十五、路廿二〇五十四至六十二、約十八〇十五至十八、廿五至廿七、

五七 に妄の證を言出せども其證あいず五七或人々たちて妄の證を言出しけるい
五八 かれ手を以て作たる此聖殿を毀ち三日の間に手を以て作ざる別の殿を
五九 建んと言しを我儕い聞り五九如此いひしが其證また符ず六十祭司の長中に立
六十 てイエスに問いひけるい爾答る言なき乎この人々の爾に立る證據い如何
六一 イエス默然として何も答ざりければ祭司の長また彼に問て曰けるい爾
六二 い頌べき者の子キリストなる乎六二イエス曰けるい然り人の子大權の右に
六三 坐し天の雲の中に現れ來るを爾曹みるべし六三是に於て祭司の長うの衣を
六四 裂て曰けるい我儕なんぞ復ほかに證據を求んや六四うの褻瀆たる言い爾曹
六五 も聞る所なり爾曹如何に意ふや彼等擧てイエスを死に當るべき者と擬た
六五 り或者い彼に唾し又うの面を掩ひ拳にて擊いひけるい預言せよ亦僕等
六六 も手の掌にて彼を批り六六ペテロ下庭に在しに祭司の長のある婢きたりて
六七 其火に懊まり居を見つらつら彼を視て曰けるい爾もナザレのイエスと
六八 偕に在し六八ペテロ肯いずして曰けるい我これを知ず亦なんぢが言ところ

ノ 太廿七〇一二、十一至十四、路廿三〇一至五、約十八〇廿八至廿八、
井 徒二〇七、
オ 賢五十三〇七、
ク 太廿七〇十五至廿六、路廿三〇十七至廿五、約十八〇廿九四十、

六九 の事を識得ざるなり斯て庭門に出ければ鷄鳴ぬ六九うの婢かれを見て傍に
七十 立る者に又いひけるい此人もかの黨の一人なり七十ペテロまた肯いず少頃
七一 して傍に立る者またペテロに曰けるい爾誠に彼の黨の一人なり蓋爾い
七二 ガリラヤの人なり其方言これに合り七二是に於てペテロ誓て我神の祟を受
七二 るとも爾曹が曰うの人を我い識ざる也と曰しが七二此とき鷄二次鳴ければ
七二 ペテロイエスの鷄二次なく前に三次我を識ずと曰んと言たまひし事を憶
七二 起し且これを思反して哭悲めり

第十五章

二 平旦に及び直に祭司の長長老學者たち凡の議員と共に議てイエ
二 スを繫り曳携てピラトに解せり二ピラト彼に問けるい爾いユダヤ人の王
三 なるやイエス答けるい爾が言る如し三祭司の長多端をもて彼を訟ふ四ピ
四 ラト復イエスに問て曰けるい何も答ざるか彼等が爾について證を立して
四 と幾何かりぞ乎五ピラトの奇と爲までにイエス何をも答ざりき六偖この
六 節筵にい彼等が求に任せて一人の囚人を赦すの例なり七時にバラバと云

ヤ 徒三〇十四、

マ 太廿七〇卅一至卅四、路廿三〇廿七至卅、約十九〇一至三、十六、

ケ 太廿七〇卅六至卅三、路廿三〇廿六至卅三、約十九〇十六十七、

る者あり己と共に謀叛せし黨と同く繫れ居たりしが彼等いろの謀叛のとき人を殺しし者等なり八人々聲を揚て呼り恒例の如せん事を求り九ピラト彼等に答て曰けるいユダヤ人の王を爾曹に我が釋さん事を欲むや十是ピラト祭司の長等の嫉に因てイエスを解したりと知べなり十一祭司の長民どもにバラバを釋さん事を求と唆む十二ピラトまた答て彼等に曰けるい然べユダヤ人の王と爾曹が稱る者にい何を我が處ん事をなんぢら欲むや十三彼等また叫びて之を十字架に釘よと曰十四ピラト彼等に曰けるい彼なんの惡事を行しや彼等ますます叫びて之を十字架に釘よと曰十五ピラト民の懼びを取んとしてバラバを彼等に釋しイエスを鞭ちて之を十字架に釘ん爲に付せり十六兵卒等これを公廳に携ゆき全營を呼集め十七彼に紫の袍をきせ棘にて冕を編て冠しめたり十八斯て曰けるいユダヤ人の王安かれ十九また葦を以て其首を擊かつ唾し跪きて拜しぬ二十嘲弄し畢て紫の衣をはぎ故の衣をきせて十字架に釘んとて曳往しが二アレキサンデルとルフの父なるク

フ 太廿七〇卅九至卅八、路廿三〇卅三卅四、卅八、約十九〇十八、廿七至廿四、詩廿二〇十八、廿五十三〇、

コ 驗五十三〇十二、

エ 太廿七〇卅九、至四十四、路廿三〇卅五至卅七、卅九至四十三、詩廿二〇七、

テ 可十四〇五十八、

ア 太廿七〇四十五至五十六、路廿三〇四十四至四十九、約十九〇廿八至卅、

サ 詩廿二〇一、

レ子のシモンと云るもの田間より來りて其處を經過りけれべ强て之にイエスの十字架を負せたり二三イエスをゴルゴダ譯べ即ち髑髏と云る所に携來り二四沒藥を酒に和て飲せんと爲りしに之を受ざりき二五イエスを十字架に釘しのち誰が何を取んと鬮を拈てろの衣服を分てり二六朝の第九時にイエスを十字架に釘二七ろの罪標をユダヤ人の王と書つく二八二人の盜賊かれと共に一人い其右一人い其左に十字架に釘らる二九これ聖書に彼い罪人と共に算られたりと云しに應り三〇往來の者イエスを誚り首を搖て曰けるい噫聖殿を毀て之を三日に建る者よ三一自己を救て十字架を下よ三二祭司の長學者等も同く嘲弄して互に曰けるい人を救て自己を救ひ能ず三三イスラエルの王キリストい今十字架より下るべし然べ我儕見て之を信せん又ともに十字架に釘られたる者等も彼を訴れり三四第十二時より三時に至るまで徧く地のうへ暗なりぬ三五第三時にイエス大聲に呼りエリ、エリ、ラマサバクタニと曰これを譯べ吾神わが神何ぞ我を遺たまふ乎と云るなり三六傍ら

キ 詩六十九〇廿一。

ク 路八〇二三、

メ 太廿七〇五十七至六十一、路廿三〇五十至五十六、約十九〇卅八至四十二、

ミ 路二〇廿五、卅八、十九〇十一、

三六 に立たる者のうち或人これを聞て彼ゝエリヤを呼なりと曰 三七 一人はしり
三八 往て海絨をとり醋を漬せ之を葦に束て彼に飲しめ曰けるゝ俟エリヤ來り
三九 て彼を救ふや否こゝろむべし○三九イエス大なる聲を發て氣絶 三八 殿の幔上
より下まで裂て二と爲り 三九 イエスに對て立たる百夫の長かく呼り氣絶し
四十 を見て曰けるゝ誠に此人ゝ神の子なり○四十また遙に望ぬたる婦ありし其
中に在し者ゝマグダラのマリアおよび年少ヤコブとヨセの母なるマリア
四一 又サロメなり 四一 彼等ゝイエスのガリラヤに居たまひし時これに從ひ事し
四二 者等なり亦この他にも彼と共にエルサレムに上りし多の婦ぬたりき○四二
四三 是日ゝ備節日にて安息日の前の日なりし故 四三 日暮るとき尊き議員なるア
リマタヤのヨセフと云る者きたれり此人ゝ神の國を慕る者なり彼はぶか
四四 らずピラトに往てイエスの屍を求たり 四四 ピラトイエスの已に死るを奇み
四五 百人の長を呼て彼ゝ死てより時を經たるや否やを問 四五 百夫の長より聞て
四六 之をしり屍をヨセフに予ふ 四六 ヨセフ枲布を買求め而してイエスを取下し

シ 太廿八〇一至八、路廿四〇一至十二、約廿〇一至十。

ス 路廿三〇五十六、

セ 太廿六〇卅二、太廿八〇八至十、

ソ 約廿〇十一十二、

イ 約廿〇十四至十八、路八〇二、

四七 之をうの枲布にて裹み磐に鑿たる墓におき石を墓の門に轉し置り 四七 マグ
ダラのマリア及ヨセの母なるマリア其屍を葬し處を見たり

安息日過てマグダラのマリアとヤコブの母なるマリア及サロ
メ香料を買とゝのへイエスに抹んとて來れり 二 七日の首の日いと早く日
の出る時彼ら墓に來り 三 互に曰けるゝ誰か我儕の爲に石を墓の門より轉
し取もの有んか是うの石はなはだ巨大なれば也 四 斯て彼等目を擧れば石
の已に轉あるを見る 五 墓に入しに白衣をきたる少者の右の方に坐せるを
見て駭き異めり 六 少者かれらに曰けるゝ駭き異む勿れ爾曹ゝ十字架に釘
られしナザレのイエスを尋ぬ彼ゝ甦りて此に居ず彼を葬し處を觀よ 七 且
ゆきて其弟子とペテロに告よ彼ゝ爾曹に先ちてガリラヤに往り爾曹かし
こにて彼を見べし即ち其なんぢらに言しが如し 八 彼等いでゝ墓より奔れ
り且戰慄かつ駭き亦一言をも人に語ざりき是懼しが故なり○九イエス七
日の首の日よあけごろ甦りて先マグダラのマリアに現る曩にイエス彼よ

り七の悪鬼を逐出せり十イエスと共に在し者の哭哀める時に此婦きたりて是等の事を告十一彼等イエスの活て此の婦に見え給ひしことを聞しが信せざりき十二此後かれらの中二人の者鄉村へ往けるが路を行ときイエス變たる貌にて彼等に現る十三この二人の者ゆきて他の弟子等に告けれども亦これをも信せざりき○十四又ろの後十一の弟子の食しをる時に現れて彼等が信なきと其心の頑とを責め給へり是かれらイエスの甦り給るのち其を見し者の言ところを信せざりし故なり十五イエス彼等に曰けるゝ徧く世界を廻て凡の人に福音を宣傳よ十六信じてバプテスマを受る者ゝ救れ信せざる者ゝ罪に定らるゝ也十七信ずる者にゝ左の如き奇跡したがふべし我名に託て悪鬼を逐出し異邦の方言をいひ十八また蛇を操へ毒を飲とも害なく又手を病の者に按なべ即ち愈ん○十九斯て主ゝ彼等に語しのち天に擧られ神の右に坐しぬ二十弟子たち徧く福音を宣傳ふ主も亦かれらに力を協せ其從ふ所の奇跡によりて道を堅うしたまへりアメン

イ 太九〇十五、
ロ 路廿四〇十一、
ハ 路廿四〇十三至廿五、
ニ 路廿四〇十三至廿五、
ホ 路廿四〇廿六至四十九、約廿〇十九廿、
ヘ 太廿八〇十九、
ト 約三〇十八、
チ 徒五〇十六、十六〇十八、
リ 徒二〇四至十一、
ヌ 徒廿八〇三至六、
ル 徒五〇十五十六、廿八〇八九、
ヲ 太廿八〇廿、徒五〇十二、十四〇三、約二〇三四、

新約全書馬可傳福音書　終